

I 序 章

——自然科学・哲学・神学における最近の傾向——

- (1) 実在論の復活……………一
- (2) 自然科学と方法論……………五
- (3) 神学と方法論……………八
- (4) より広い枠組の立場から……………九

II 観測と認識

- (1) 従来 of 考え……………一三
 - i 古典物理学……………一四
 - ii 相対性理論……………一九
 - iii 量子論……………二七

	(2) MNA理論	三〇
	(3) 一般論	三二
	(4) 認識論の問題	三六
III 論理と実在		
	(1) 従来 of 考え	三五
	i 形式論理	三五
	ii 集合論と数学基礎論	三七
	iii 論理と存在	三九
	(2) 拡張の必要性	三九
	i 現代物理学における問題	三九
	ii 日常的な問題	四一
	iii 非西欧的思考の問題	四三
	(3) ファジー論理	四八

IV	時空と存在	101
	(1) 従来の考え	101
	i 空 間	101
	ii 時 間	107
	(2) 拡張の必要性	114
	(3) 永在性(aevity)とアイオニティ(aionity)	116
V	世界像	139
	(1) 本書の考えのまとめ	139
	(2) メタ哲学	147
	(3) 今後の問題	149
	(4) 追 記	151
付	録	153

索引

付録 A	物理学における可逆性と非可逆性について(抄)	一五〇
付録 B	悠久と時について	一六六
付録 C	物理学的世界像の問題	一六九
付録 D	十字架の聖ヨハネ著「霊の賛歌」第三十八の歌	一七〇